

I 国民保護とは

我が国に対する外部からの武力攻撃やテロなどは、いつ、どこで、どのように発生するかを予測することは難しい上に、多くの人々に影響を与えることになります。もしもこのような事態に遭遇した場合、一人ひとりが混乱すると、対応の遅れや危険を生じてしまい、被害を拡大させないとも限りません。それらを防ぐためには、常日頃から、このような事態に遭遇した場合に、どのように対応したらいいのか、その際に必要なものは何かということについて、家族も含めて、確認しておくこと、備えておくことが助けになります。



1. 国民保護ってどんなこと？

国民保護のポイントは大きく3つ。

「避難」・「救援」・「武力攻撃への対処」です。

国民保護とは、平成16年9月に施行された国民保護法に基づき、外国からの武力攻撃や大規模テロ等から、国民の生命、身体及び財産を保護することをいいます。

万が一こうした事態が発生した場合、政府が策定する基本的な方針に基づき、国や都道府県、市町村などが連携協力して、住民の避難や救援、武力攻撃災害への対処などの国民保護措置を行います。

2. 対象となる事態

武力攻撃が発生した事態、または、武力攻撃が発生する明白な危険が切迫していると認められた**武力攻撃事態**や、爆破テロなどの武力攻撃で多数の人を殺害する行為が発生した事態、または、発生する危機が切迫していると認められた事態で国民の生命、身体及び財産を保護するため、国家として緊急に対処することが必要な**緊急対処事態**が対象となります。

～ 武力攻撃事態～



着上陸侵攻



ゲリラ・特殊部隊



弾道ミサイル



航空攻撃

～緊急対処事態～

- ・石油コンビナート、可燃性ガス貯蔵施設などの爆破



- ・大規模集客施設、ターミナル駅、列車などの爆破



- ・航空機などによる自爆テロ



たんそきん

- ・炭疽菌等生物剤やサリン等化学剤の大量散布



- ・放射性物質を混入させた爆弾などの爆発



Ⅱ 身の安全を守るために

～警報が発令したとき～

1. まずは身の安全をはかりましょう！

【屋内にいる場合】

- ・ドアや窓、カーテンを閉めましょう。
- ・ガス、水道、換気扇を止めましょう。
- ・ドア、壁、窓ガラスから離れて座りましょう。



【屋外にいる場合】

- ・近隣の頑丈な建物や地下街などの屋内に避難しましょう。
- ・車で移動している場合は、緊急車両の通行の妨げとならないように、できれば道路外に、難しければ道路の左側に寄せ停車し、避難しましょう。その時、車のキーはつけたままにしましょう。

2. 落ち着いて情報収集を！

警報をはじめ、テレビやラジオ、スマートフォンなどを通じて伝えられる各種情報に耳を傾け、情報収集に努めましょう。



3. 落ち着いて行動を！

- ・行政機関から避難指示が出された場合は、指示に従って落ち着いて行動しましょう。
- ・避難するときは、非常持ち出し品を持参しましょう。また、近所の人どうしで声をかけ合いましょう。



～近くで急な爆発が起こったとき～

1. まずは身の安全をはかりましょう！

- ・とっさに姿勢を低くしましょう。
- ・周囲で物が落下してきた場合、頑丈なテーブルなどの下に身を隠しましょう。



2. 落ち着いて行動を！

- ・爆発が起こった場所からできる限り速やかに離れましょう。
- ・火災が発生した場合、口と鼻をおさえ、できる限り低い姿勢をとり、急いで建物から出ましょう。

3. 落ち着いて情報収集を！

テレビ、ラジオなどを通じて伝えられる警報など、各種情報の収集に努めましょう。

4. 危険な場所に近づかない

警戒区域、立入制限区域など、危険なところへは近寄らないようにしましょう。



5. 秩序を守る

- ・みんなでお互い協力し合い、避難や応急救護をしましょう。
 - ・非常時には身勝手な行動を避け、秩序を守って行動しましょう。
- また、衛生面にも十分注意しましょう。



～避難するときのポイント～

1. 着上陸侵攻の場合

- ・ 攻撃が予測された時点で事前の準備が可能であり、あらかじめ避難することが想定されます。
- ・ 広範囲の攻撃により、遠方への避難が必要となるとともに、避難の期間が長期間にわたることも想定されます。行政機関からの指示に従い適切に避難しましょう。



2. ゲリラや特殊部隊、弾道ミサイルによる攻撃の場合

突発的に被害が発生することが考えられるため、攻撃当初は一旦屋内に避難し、その後、状況に応じて行政機関からの指示に従い適切に避難しましょう。弾道ミサイルによる攻撃の場合は、近隣の頑丈な建物や地下街などの屋内に避難しましょう。



3. 航空攻撃の場合

攻撃地の予測が難しいため、屋内への避難が広範囲にわたって指示されることが考えられます。近隣の頑丈な建物や地下街などに避難しましょう。



～武力攻撃やテロなどの手段として 化学剤、生物剤、核物質が用いられた場合について～



・化学剤の場合

①特徴

化学剤は特有のにおいがあるものや無臭のものなど、性質は異なります。人から人へと感染することはありませんが、比較的早く目や喉への刺激、くしゃみや咳などの症状が現れます。

触れること、口に入れること、気化したものを吸い込むことによって、人体に悪影響を及ぼすため、飲食物・日用品への混入、人体への直接注入、液体の散布、爆発物や噴霧器などを使用した散布が考えられます。

②留意点

屋外では、周りで異臭や異変を感じたら、すぐに口と鼻をハンカチで覆いながら、その場から（可能であれば風上に）逃げましょう。

その後、すみやかに消防や警察に連絡しましょう。

屋外で異常が発生し、その地域の屋内にいる場合は、窓を閉めた上で、換気扇などの空調を停止しましょう。

屋内で異常を感じた場合は、直ちに屋外に避難します。

その際、ドアは閉めて避難しましょう。

衣類が汚染された場合は、速やかに服を脱ぎましょう。

服を脱ぐことが難しい場合は、はさみで切り裂くようにしましょう。

・生物剤の場合

①特徴

生物剤は通常触れただけでは影響ありませんが、傷口や口から体内に取り込む、吸い込むことによって感染し、発症するまでの潜伏期間があります。

感染したことに気づかずに人々が移動することで、被害が広がります。



②留意点

被害の拡大が認められた場合、行政機関により移動制限などが行われる場合があります。汚染域とされる地域に移動した場合、感染が疑われるといった場合は、保健所、保健センター等に連絡し指示に従ってください。

・核物質の場合



①特徴

核兵器を用いた攻撃による被害については、当初は核爆発に伴う熱線、爆風による物質の燃焼、建物の破壊、放射能汚染などが生じます。

その後、放射性降下物（放射能を持った灰）が降下することにより、放射線障害などの被害が生じます。

②留意点

放射線による人体への悪影響を軽減するためには、距離、時間、遮蔽（しゃへい）の3要素が重要です。

危険な地帯から距離を取る、放射線を受ける時間を短くする、線源との間に遮蔽物（しゃへいぶつ）を設けることで、被害の軽減を図ります。

近隣に建物があれば、その中へ避難しましょう。

地下施設やコンクリートの建物であれば、より安全です。

建物がなければ、上着を頭から被り、口と鼻をハンカチで覆うことで皮膚の露出をなるべく少なくし、爆発地点から遠くへ、風下を避けて、風向きと垂直方向に避難しましょう。

